



交付式終了後、早速指導を受ける奈良岡さん(右)

つがる市で農家になりたい

市では、農業の担い手育成や定住促進を目的に、つがる市へ移住して新規就農を目指す「就農研修生」を支援しています。

その第2号として、青森市から単身移住してきた奈良岡翔平さん(32歳)が11月1日付けで認定されました。研修期間は令和3年2月末まで。市内の農業経営士が構成する市就農研修生受入協議会(吉田誠也会長)から農業経営のノウハウを学びます。

松の館で行われた認定証交付式で吉田会長は「やりたいことは全部教える。ビジョンをしっかりと持ってがんばって」と奈良岡さんを激励。奈良岡さんは「自分の農業を実現するためつがる市を選んだ。いつかは研修生を指導できるような農家になりたい」と抱負を語りました。

美しい音楽で心豊かに

五所川原人権擁護委員協議会つがる部会(平田昌子部会長)による「人権コンサート」が10月26日、イオンモールつがる柏で開催され、市民ら約150人が、音楽を楽しみながら人権への意識を高めました。

コンサートには、ボーカルの菊地由利子さん(鶴田町出身)とピアノの高橋朋子さん(五所川原市出身)のデュオ「サエラ」が出演。オリジナル曲のほか、家族愛を描いた歌謡曲「秋桜」や心温まる童謡「ふるさと」など17曲を披露し、美しいピアノと歌声で来場者を魅了しました。また、コンサートに先立ち、市の人権擁護委員らがチエスボロ一号遭難救助を描いた紙芝居「愛は海を越えて」を上映し、市で語り継がれる人間愛を来場者に伝えました。



聴衆を魅了したサエラのお2人



感謝のメッセージを伝える園児たち

お仕事がんばってください

勤労感謝の日を前に11月7日、木造西幼稚園(吉田節子園長)の園児24人が市役所を訪れ「毎日のお仕事ご苦労さまです。これからもお仕事がんばってください」と、市職員に感謝と激励のメッセージを伝えました。

この日、ロビーに整列した園児らは、シクラメンの花や特製のカレンダーなどを倉光副市長さんにプレゼントした後、鍵盤ハーモニカの演奏と元気な歌で職員を励ました。倉光副市長は「みんなが元気に幼稚園に行くのが一番の喜びです。いっぱい食べて勉強やお遊戯がんばってください。ありがとう」とお礼をのべました。同幼稚園では、市役所のほか越水郵便局など計8カ所を訪問しました。

防火の誓いを新たに

県民の防火意識の高揚を図る「青森県防火の集い」が11月7日、松の館で開催され、県内の防火ボランティアら約300人が一堂に会し、地域を火災から守ることを誓い合いました。

県内4つの民間防火組織がそれぞれの地域に根差した防火活動を報告。つがる市からは、元増婦人防火クラブ(稻垣町)の小笠原哲子会長が登壇し、消防本部や社会福祉協議会などと連携して一人暮らしの高齢者世帯に住宅用火災警報器を設置して回った活動を紹介しました。

続いて基調講演では、小樽市の南部真人さんが、北海道胆振東部地震の被災地でボランティア活動に参加した様子を伝えました。

令和元年度 青森県防火の集いつがる大会



防火の宣言をするつがる市女性消防クラブのメンバー

ひとり一人を大切にした福祉のまちづくり

第15回つがる市社会福祉大会が11月9日、松の館で開催され、約300人の市民らが一人一人を大切にしたまちづくりに向け決意を新たにしました。

児童生徒による「福祉の作文」発表では、市内の小中学校から6人が登壇。自分なりに考えた「福祉」という言葉の意味、優しい声掛けや「ありがとう」を伝える大切さなど、体験を通じて学んだことを来場者に伝えました。式典では、市社会福祉協議会の平川満昭会長が「誰もが住み慣れたまちで安心して生活できる地域づくりに積極的に取り組んでいきます」とあいさつ。続いて、地域福祉の向上などに貢献した20個人、7団体に対し、平川会長から表彰状および感謝状が伝達されました。



平川会長から表彰状を受け取る被表彰者(左)



楽しそうにきぬを振るう親子

大きなきぬで「よいしょ!」

菰城保育園(大橋登美子園長)は11月16日、旧菰城小学校体育館で「収穫感謝祭」を開きました。これは、春に自分たちで植えたもち米の苗を秋の稻刈り体験で収穫し、最後にこの感謝祭で餅にして食べるという食育に関する恒例行事です。

感謝祭には同園園児のほか、しばた保育園児、地域の児童、保護者、地元老人クラブのメンバーら約70人が参加。交代できぬを握った子どもたちは、みんなの「よいしょ、よいしょ」のかけ声に合わせて元気に餅をついていました。菰城保育園の新岡百々花ちゃん(6歳)は「もちがくつついで重かったけど楽しかった」と笑顔で話していました。ついた餅は雑煮やお汁粉、きなこ餅などにして、みんなで味わいました。

3日間の移住体験

11月2~4日、「大学生移住体験ツアー」が市内で行われ、首都圏の学生らが地方での生活を体験しました。

ツアーは、関係人口の拡大を目的に市が主催するもので、今年は慶應義塾大学や駒澤大学など8大学から8人を優待。参加者は、木造商店街のまち歩きやリンゴの収穫、郷土料理の調理体験などを通じて地域住民と交流を深め、つがる市の暮らしを味わいました。また、最終日には商店経営者や木造高校の生徒らと共に、商店街の活性化を考えるワークショップも行いました。

立教大学の森香南さんは「地元の人たちと話す機会があり、観光とは違ったつながりを持つことができた。移住を考える上で大切な一歩になると思います」と振り返りました。



すしこのおにぎり作りに挑戦する学生ら

全国の精銳相手に力闘

10月6日に開催された第22回全日本小学生女子相撲大会(堺市)で、五所川原相撲教室に所属する川浪鈴菜さん(柏小5年)が5年生の部45kg以上級で準優勝、つがる旭富士ジュニアクラブに所属する長谷川心響さん(穂波小6年)が6年生の部60kg以上級で3位の成績を収めました。

川浪さんは、決勝で昨年と同じ相手に挑み、昨年に続き悔しい準優勝。長谷川さんは、最重量級での出場を選択し、昨年のベスト8から3位に成績を伸ばしました。

11月18日、2人は市役所を訪れ倉光副市長へ結果を報告。川浪さんは「来年は絶対優勝する」、長谷川さんは「もっと練習を重ねたい」と次への抱負を語りました。



結果を報告した川浪さん(左)と長谷川さん(右)